

特定非営利活動法人 子育て応援団ひよこ
平成23年度事業報告
(平成23年5月16日～平成24年3月31日)

<1年のまとめ>

- ・法人として事業を開始した最初の一年として、取り組みに対する姿勢など周囲から試される一年となったが、1つ1つの取り組みをしっかりと行うとともに、積極的に他団体や地域との関わりを持っていくことで、着実に法人の基盤を作り上げていくことが出来たと思う。しかし、事業を実際に実施することで見えてきた反省点も多々あるため、次年度はそれらを改善しながらより良い活動へとつなげていきたいと思う。

<運営に関する事項>

☆総会の開催

日時 : 平成23年6月14日 19:00～20:25

那智が丘児童センター クラブ室

出席者数: 理事7名 正会員15名 委任状8名 計30名

- ・議題
 - ・法人成立に関する件
 - ・任意団体「保育サークルひよこ」に関する件
 - ・寄付財産に関する件
 - ・人事に関する件

☆理事会の開催

① 平成24年1月19日(木) 9:30～10:30

那智が丘児童センター クラブ室にて

出席者数: 理事6名(8名中)、事務局1名 計7名

- ・議題
 - ・平成23年度事業報告
 - ・任期満了に伴う、新年度からの理事の選任について
 - ・理事会の持ち方、活動計画について
 - ・平成24年度定時総会の実施について
 - ・平成24年度活動計画について

② 平成24年2月16日(木) 9:30～10:30

那智が丘児童センター クラブ室

出席者数: 理事6名(8名中)

- ・議題
 - ・平成24年度新規事業案について
 - ・新年度有給職員報酬について
 - ・任期満了に伴う、新年度からの理事の選任について
 - ・新年度理事会活動計画について
 - ・平成24年度定時総会の実施について(日時、会場の決定)
 - ・その他(イベント託児事業の内容検討)

③ 平成24年3月2日(金) 15:30～17:00

名取市役所 (旧食堂を許可を得て使用)

出席者数: 理事5名(8名中)

- ・議題
 - ・イベント託児事業について
 - ・ボランティアスタッフ規定について

*前半は事務局の独断で事業を進めることが多く、理事会として機能していなかったが、後半に「理事」や「理事会」の役割はどのようなものであるのか再確認することで、機能するようになった。法人の事業や課題検討をしっかりと理事会で審議出来るようにしていきたい。

☆事務局員体制（平成23年3月31日現在）

①子育て応援団ひよこ事務局

事務局長（兼副理事長兼那智が丘児童センター施設管理者兼主任児童厚生員）：齋藤 勇介
事務長（兼那智が丘児童センター事務長）：鈴木 敏浩

②イベント託児事業

代表（兼理事長）：松木 浜子
副代表（兼副理事）：白川 万喜子
ボランティア登録スタッフ：25名

③那智が丘児童センター勤務

施設管理者兼主任児童厚生員：齋藤 勇介
児童厚生員：武者 たい子、宇津宮 慶子
臨時児童厚生員：久保 允、大友 美和子、神賀 ゆかり
事務長：鈴木 敏浩

*

<活動に関する事項>

☆特定非営利活動に係る事業

① 事業名 : <地域の連携事業>

事業内容 : 子育てイベント託児

日 付	催事名	場 所	託児人数		ボランティア	謝礼
			男児	女児		
H23・7 /15	ファミリー・サポートセンター交流会	那智が丘児童センター	2	0	2	2,500
10/20	講習会	保健センター	0	1	1	2,500
10/27	講習会	市役所西棟会議室	1	1	1	2,500
10/19	子育て支援センター サークル運動会	ゆりが丘公民館	3	3	3	2,000
11/17	本郷幼稚園 救命講習会	本郷集会所	3	4	7	2,000
11/18	〃	〃	8	2	7	2,000
H24・ 1/20	名取市体育館主催 ヘルスアップ教室	館腰公民館	4	3	5	2,000
1/27	〃	那智が丘公民館	2	3	3	2,000
2/3	〃	館腰公民館	4	2	4	2,000
2/10	〃	那智が丘公民館	1	1	4	2,000
2/17	〃	館腰公民館	5	2	5	2,000
2/24	〃	那智が丘公民館	2	1	3	2,000
3/1	〃	名取が丘公民館	1	1	5	2,000
3/2	〃	館腰公民館	5	3	6	2,000
3/8	〃	名取が丘公民館	4	2	5	2,000
3/9	〃	那智が丘公民館	2	1	2	2,000
3/16	〃	館腰公民館	5	3	5	2,000
3/22	〃	名取が丘公民館	3	1	4	2,000
3/23	〃	那智が丘公民館	2	1	2	2,000

3/29	〃	名取が丘公民館	1	1	4	2,000
合 計	20回		58	36	78	41,500

託児事業収入：41,500円

イベント託児事業に係る支出：5,987円（ボランティア保険料として）

<成果課題>

平成23年度は東日本大震災の影響を受け、9月まではすでに依頼を受けていた活動がキャンセルになるなど、前半はほとんど活動出来ずにいた。10月より様々な活動が通常に戻り、その後は順調に活動を実施することが出来ている。

現在は乳幼児を対象とした託児が主であるが、市内の小学校PTAより保護者懇談会時の小学生の託児要請の声も出てきた。小学生対象の託児を実施する上では、どのくらいのスペースが必要であるのか、そのスペースに対して何人まで受け入れが可能であるかなど、小学生の託児を見据えた事業の見直しをしていく必要がある。

- ② 事業名 : <子育て支援事業>
 事業内容 : 那智が丘児童センター運営管理事業（業務委託）
 実施日 : 年間を通じて実施
 *日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）を除く
 実施場所 : 名取市那智が丘児童センター
 従事者 : 常勤7名、サポートスタッフ5名（長期休みやイベント時など）
 受益対象者 : 0歳児から小学生とその家族及び中学生、高校生
 事業収入 : 12,100,000 円（那智が丘児童センター委託費）
 事業支出 : 11,571,316 円

<那智が丘児童センター活動内容>

1. 運営方針

- ① 児童に健全な遊びや活動の場を提供し、心と身体の健康の増進を図るようにする。
 ② 健全な遊びを通して、児童に日常生活の在り方や、安全について体得できるようにする。
 ③ 異年齢児との活動を通して、心と心のふれあいと社会連帯意識を育てるようにする。

2. 目的

- ☆生活や遊びを通して・・・①組織的運動や遊びを集团的に実施することにより、児童の活動力を助長する。
 ②いろいろな経験をすることで遊びの楽しさを知らせる。
 ③ルールを身につける。
 ④異年齢との交流を深める（思いやり・協調性を養う）。
 ☆安全に過ごす・・・危機管理意識を持つ。

・保護者支援・子ども乳幼児への支援

子育てサロン (びよびよハウス)	・ 育児の中で親子共に心安らげる場所を提供する。 ・ 育児についての不安や悩みを共有する。 ・ 月曜日～金曜日 9:00～16:30（祝日、年末年始を除く） *年間利用者数は別表1参照。
出張子育てサロン	・ 名取市内の相互台地区、館腰地区に職員が出向いて、子育てサロンを開催。 - 年間4回 述べ60組の親子が参加 *高館保育所・増田保育所子育て支援センターと連携し、実施している。
育児リフレッシュ (びよママタイム・びよママシアター)	・ 母子分離を行って活動を楽しむことで、育児リフレッシュを図る。 ・ 少しの時間子どもと離れ、自分の時間を過ごすことで、心にゆとりを持ち、育児の楽しさを再確認してもらう。 <びよママタイム> ・ ボクササイズ（全3回） 参加者：述べ17名 ・ 卓球（1回） 参加者：4名 ・ 3on3（1回） 参加者：6名 ・ バドミントン（1回） 参加者：4名 ・ カラーコーディネート講座（2回） 参加者：19名 *参加費 無料、活動中託児有

	くびよママシアター＞＊ママの映画会 ・全5回開催 参加者：24組 ＊映画会の会場に遊びのスペースを設置。託児は行わないが会場内でスタッフと遊びながら過ごすことが出来る
遊びの広場 「ぴよぴよ広場」	・親子触れ合い遊びや集団遊びなどの活動を通じて、子どもとの関わり方、子育ての楽しさを伝えていく。 ・工作、クリスマス会、遠足、歯磨き教室など実施。 ・年間7回開催。 参加者：延べ248名
子育て情報誌の発行 「piyopiyo」	・情報誌を通じて、子育てに関わる情報を地域へ伝える。 ・年4回（3か月毎）発行
その他	・そらとぶクレヨンあそび歌コンサート 参加者：45名 ・メール配信・ホームページ・ブログを利用したの情報提供



子育てサロン ぴよぴよハウス



ぴよぴよ広場「バス遠足」



ぴよぴよ広場「クリスマス会」



ぴよママタイム！！
「カラーコーディネート講座」

<放課後児童クラブ>

児童に対しての遊びの指導及び助言並びに放課後の生活の場の提供。自由来館業務に関しては、登録児童以外の1年生から6年生までの児童及び中学生、高校生

① 各種活動行事

- ・各種大会等……様々な遊びに挑戦し、楽しさや達成感が感じられる活動を実施。
 - ・工作タイム……身近な材料などを使い、簡単で楽しい工作を実施。
 - ・スポーツタイム…ドッジボールやバレーボールなど、体を元気に動かす。
 - ・お話しタイム……お話しボランティアさんによる楽しいお話の時間。
 - ・ティータイム……簡単なおやつを自分で作ってみんなと楽しく食べる。
 - ・きりえタイム……カッターの安全な使い方を知り、自分だけの作品を作る。
- ☆その他、折り紙タイムやお茶会など楽しい行事を多数実施。

<次世代育成支援>

育児ボランティア 育成支援	・ 地域にある大学を中心にした学生ボランティア育成支援 ・ 子育て経験者を中心とした育児ボランティアサークルの育成支援
------------------	--

<地域交流>

お話し会	月1回、地域のお話しボランティア「お話しポケット」によるお話し会を開催。活動を通じて子どもたちと地域の方々との交流を図る。 参加者：小学生 延べ425名
老人保健施設なとり 慰問交流会	学区内にある老人保健施設なとりとの慰問交流。世代間交流を通じて思いやりの心や、やさしい気持ちなど、子どもたちの心の成長を育む 参加者：小学生39名

出産を控えた方から次世代を担う方々、放課後児童クラブ対象児童、子育てをひと段落された方々までつながりを持って支援していくことで、育児力の向上を図るだけでなく、地域の育児に対する意識の向上や、児童センターを介した地域交流から地域の活性化を目指している。

那智が丘児童センター利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	計
開館日数	25日	23日	26日	25日	26日	125日
登録児童 (放課後児童)	731名	757名	884名	639名	661名	3672名
自由来館 (小学生以上)	472名	215名	273名	404名	252名	1616名
乳幼児の親子 (サロン利用)	50名	115名	332名	235名	156名	888名
行事 クラブ活動	32名	281名	487名	674名	471名	1945名
他団体 地域活動	89名	61名	0名	85名	36名	271名
合計	1374名	1429名	1976名	2037名	1576名	8392名

	9月	10月	11月	12月	計
開館日数	24日	25日	24日	23日	96日
登録児童	800名	797名	771名	707名	3075名
自由来館 (小学生以上)	150名	188名	122名	162名	622名
乳幼児の親子 (サロン利用)	292名	348名	417名	270名	1327名
行事 クラブ活動	357名	541名	420名	351名	1669名
他団体 地域活動	79名	98名	173名	150名	500名
合計	1678名	1429名	1976名	2037名	7193名

	1月	2月	3月	計	総計
開館日数	22日	24日	25日	71日	292日
登録児童	667名	659名	672名	1998名	8745名
自由来館 (小学生以上)	122名	81名	164名	367名	2605名
乳幼児の親子 (サロン利用)	203名	106名	290名	599名	2814名
行事 クラブ活動	394名	257名	478名	1129名	4743名
他団体 地域活動	124名	43名	207名	374名	1145名
合計	1510名	1146名	1811名	4467名	20052名

*1日平均利用者数：約69名

(登録児：30名 自由来館児：9名 乳幼児親子：10名 行事等：16名 他団体：4名)

<成果課題>

名取市においては、乳幼児の親子へ向けた子育て支援のニーズは大きくなっているものの、「児童センターは小学生遊ぶ場所」と放課後児童クラブのみが周知されており、「乳幼児は遊びに来てはいけない」「遊びに行きにくい」という印象があったようであるが、積極的に乳幼児親子が過ごしやすい環境作りに取り組んでいくことで、次第に「那智が丘児童センターは楽しく過ごせるよ」と口コミなどで広がり、那智が丘地区の方々だけでなく、広く利用してもらえるようになった。しかし、センターの取り組みが伝わっていないとの声もあり、その活動の周知方法に課題が残っている。

小学生の取り組みについても、行事などを通じて様々な経験の場を提供するなど内容は充実していたように思う。しかし、自由来館児童に関しては、「本当は遊びにいきたいんだけど」という声も多くあるが、学校終了後、家に帰ってから来館したのでは遊ぶ時間がなくなってしまうという現状もあり、利用者は少ない。これらの子どもたちにも登録児童同様に活動を通じて様々な経験を行ってもらえるよう、来館方法について再度小学校と協議をしたり、開催日時や取り組み方法を再検討していく必要があるようだ。

また、児童センターは乳幼児から高校生までの児童を対象とした施設であるが、中高生の利用はほとんどない状況である。現在の中高生の実情を考えながら、必要な取り組みを実施していきたいと思う。



老人保健施設なとり慰問交流



お話しタイム



スポーツタイム「サッカー教室」



工作タイム



「劇団かしの樹」影絵公演



にじいろコンサート



ティータイム（クッキング）



お茶会



こども映画祭

- ① 事業名 : <地域の連携事業>
 事業内容 : 他団体との連携・協力
 実施日 : 随時
 事業収支 : 0円

<他団体との連携・協力>

※県内外の被災地支援などを目的とする支援団体へ、地元協力団体として活動協力を実施
 （会場の設定、広報活動、ボランティアスタッフとして活動協力実施）

- H23.4. 避難所（名取市文化会館）あそびの広場開催
 （高館・増田子育て支援センターと共同開催） *実施回数2回
 H23.5. 避難所（名取市文化会館）支援（あそびの広場・サックスコンサート開催）
 H23.5. 避難所（名取市文化会館）お話しサロン（ファザーリングジャパン主催）
 H23.6. 被災地映画祭（AMIY CORPORATION 主催）（会場：那智が丘児童センター）

- H23.6. 被災地マジック公演（コミュニケーションマジシャンズ主催）
（会場：那智が丘児童センター）
- H23.11. 日独交流150周年友好事業「ドイツ演劇会」（仙台日独協会主催）
（会場：那智が丘児童センター）
- H24.1. 東松島市子育て支援センター再開イベント協力
（講師（齋藤勇介）他ボランティアスタッフ3名派遣）
- H24.3. 被災地パペットシアター公演（いいかお・えがお・人形劇の会主催）
（会場：那智が丘児童センター）
- （その他）
- H20.4～現在 名取市生涯学習課家庭教育基盤形成推進事業との連携
（家庭支援チーム員ぽっぽはうすとして従事）
- H23.6～現在 名取市社会教育委員（理事長 松木浜子）



コミュニケーションマジックショー



あそびの広場～サクソコンサート～



ドイツ演劇会



パペットシアター

＜成果・課題＞

震災後、様々な団体が被災地支援として名取に来ており、現地の協力団体として活動に関わってきた。その中で、他の団体や地域との連携やつながりを育むことが出来ており、このつながりを次年度にも生かせるよう今後も関わっていききたいと思う。

活動には、事務局を中心に主に児童センタースタッフが業務に携わってきたが、主として活動している児童センター事業と重複して業務を行うため、職員には負担感もあったようだ。ボランティアスタッフを募集するなど児童センター業務以外の事業に携わるスタッフを別に構成していく必要があると感じている。

☆研修

役割に応じた研修に参加し、それぞれのスキルアップを図った。

＜法人職員研修＞

① のびすく泉視察研修

- ・平成23年8月30日（火）ふれあいプラザのびすく泉中央
- ・内容：施設見学、情報交換
- ・出席者数：10名

②救命救急講習

- ・平成24年1月16日（月） 9：30～12：30
那智が丘児童センター 遊戯室にて
- ・講師：名取市消防本部より（消防士：加藤氏、武山氏）
- ・内容：救命救急法について（普通救命講習Ⅰ）
- ・出席者数：16名

＜外部研修への参加＞

☆TOHOKU ワンダー保育環境展（主催：世界文化社）

- ・平成23年6月7日（火） 卸町サンフェスタにて
- ・内容：特別講座「新しい時代の「保育道」とは・・・」
講師：藤森 平司 氏
- ・出席者：2名

☆平成23年度児童館・放課後児童クラブ新任研修会

（主催：宮城県子ども総合センター）

- ・平成23年7月8日（金） 宮城県子ども総合センター
- ・内容：講義Ⅰ「みやぎの元気を共に！児童館・児童クラブ活動」
講師：NPO 法人みやぎ・せんだい子どもの丘
副理事長 伊藤 俊子 氏
- 講義Ⅱ「健全育成論」
講師：（財）児童健全育成推進財団
広報部・業務部課長 阿南 健太郎 氏
- ・出席者：1名

☆平成23年度放課後児童クラブ指導員等ブロック研修会

（主催：宮城県子ども総合センター）

- ・内容：・ゲーム運動遊び「ちょっぴり運動な苦手な子も、一緒に楽しめちゃう！運動遊び」
講師：仙台医療福祉専門学校 中曽根 裕 氏（大和町）
仙台大学 教授 小池 和幸 氏（柴田町・仙台市）
- ・情報交換

＜仙塩ブロック＞ 平成23年8月30日（火）大和町まほろばホール

- ・出席者：1名

＜県南ブロック＞ 平成23年9月14日（水）柴田町船迫生涯学習センター

- ・出席者：2名

＜中央ブロック＞ 平成23年9月30日（金）仙台市中央市民センター
・出席者：1名

☆平成23年度第1回児童館職員等研修会（宮城県児童館連絡協議会）

- ・平成23年9月2日（金）宮城県子ども総合センター
- ・内容：・講義 安全指導・安全管理「見えますか？危険」
講師：宮城県子ども会育成連合会 専門指導員 菅原孝行 氏
- ・講義と演習「個別援助技術の理論と実践」
講師：聖和学園短期大学 准教授 加藤 和子 氏
- ・出席者：3名

☆平成23年度児童文化講座Ⅰ（主催：宮城県子ども総合センター）

- ・平成23年9月15日（木）・16日（金）の2日間
宮城県子ども総合センター 3階大ホール
- ・内容：講義「人形劇の楽しさを知る」 講師：羽富 節子 氏
- ・出席者：1名

☆子どもの心のケア推進事業被災地支援専門職員研修会

- （主催：宮城県子ども総合センター）
- ・平成23年9月22日（木）宮城県子ども総合センター3階大ホール
- ・内容：①震災後に起こりうる心身の反応と症状の理解と対応②家族支援
③関係機関の連携・協働④援助者自身の心のケア⑤子どもの心の
ケアの実際（演習）等
講師：北海道大学大学院 保健科学研究員 生活機能学分野
教授 児童精神医学 傳田 健三 氏（児童精神科医）
- ・出席者：1名

☆平成23年度 第2回児童館職員等研修会（宮城県児童館連絡協議会）

- ・平成23年10月21日（金） 仙台市中央市民センター 体育館
- ・内容：実技Ⅰ「ゲーム・運動遊び」
講師：浜松大学 子ども健康学科 准教授 磯谷 仁 氏
- 実技Ⅱ「表現活動」～ボディパーカッション～
講師：NPO 法人 ボディパーカッション協会
- ・出席者：2名

☆平成23年度 子育て支援セミナー

- 「非常時における子どもの心のケアと子育て支援」研修会
（主催：宮城県子ども総合センター・宮城県人権啓発活動ネットワーク協議会）
- ・平成23年10月28日（金）エル・パーク仙台 ギャラリーホール
- ・内容：講演「非常時における子どもの心のケアと子育て支援」
講師：宮城学院女子大学 学芸学部 発達臨床学科
教授 足立 智昭 氏
- ・出席者：1名

☆平成23年度 全国児童館長研修会

(主催：厚生労働省、(財) 児童健全育成推進財団)

- ・平成23年11月8日(火) 東京ビッグサイト 6階会議室
- ・内容 : ・記念講演「意識が変われば、行動が変わる～テーマパークの個々の力と組織力」
講師:JS パートナー株式会社 代表取締役 福島 文二郎 氏
- ・分科会
- ・出席者: 1名

☆お父さん支援員のための研修会 (主催: NPO 法人新座子育てネットワーク)

- ・平成23年11月17日(木) 仙台国際センター
- ・内容 : 被災父子家庭に対する専門家・研究者からのメッセージ
講師: 全国父子家庭連絡会 宮城父子の会 代表 村上 吉宣 氏
- ・出席者: 2名

☆平成23年度 第3回児童館職員等研修会 (主催: 宮城県児童館連絡協議会)

- ・平成23年11月25日(金) 宮城県総合センター 3F 大ホール
- ・内容 : ・講義「児童の発達と発達支援」
講師: 宮城学院女子大学 名誉教授 畑山 みさ子 氏
- ・講義「児童福祉援助技術総論」
講師: (財) 児童健全育成推進財団 阿南 健太郎 氏
- ・出席者: 2名

☆平成23年度 放課後児童クラブ指導員等研修会

(主催: 宮城県子ども総合センター)

- ・平成23年11月30日(水) 宮城県総合センター 3F 大ホール
- ・内容 : ・講義「発達理論と子どもの遊び」
講師: 秋草学園短期大学 地域保育学科 専任講師 加賀谷 崇文 氏
- ・講義「発達障がいのある子どもたちの支援」
講師: 宮城県特別支援教育センター
教育班指導主事 三浦 由美 氏
- ・出席者: 1名

☆平成23年度 児童文化講座Ⅱ (主催: 宮城県子ども総合センター)

- ・平成23年12月7日(水) 宮城県子ども総合センター 大ホール
- ・内容 : ・講義「わらべうたについて」
・実技・実演「わらべうたを体験してみましょう」
講師: 前原わらべうたで遊ぶ会 郷右近 博美 氏
- ・出席者: 2名

☆平成23年度 第4回児童館職員等研修会 (主催: 宮城県子ども総合センター)

- ・平成24年1月27日(金) 宮城県総合センター 3F 大ホール
- ・内容 : ・講義と演習「集団援助活動論」
講師: 仙台医療福祉専門学校 児童福祉学科 石川 知子 氏
- ・講義と演習「地域福祉活動」
講師: (財) 児童健全育成推進財団 事務局長 依田 秀任 氏
- ・出席者: 2名

☆平成23年度 子育て支援・ボランティア交流研修会

(主催：宮城県子ども総合センター)

・平成24年2月28日(火) 宮城県総合センター 3F 大ホール

・内容 ・講義・実技「楽しいリトミック」

講師：リトミック研究センター宮城第一支局 大河原 真歩 氏

・講義「子どもと昔話」

講師：白百合女子大学非常勤講師・まめの木文庫主催

藤井 いづみ 氏

・出席者：1名

☆子どもと家庭を支えるネットワークと連携をめざして

(宮城県里親連合会・(特活) 子どもの村福岡・宮城県 共催フォーラム)

・内容 ・講演1「大震災と子どもの心のケア」

講師：宮城県子ども総合センター所長 本間 博彰 氏

講演2「わが国の社会的養護の課題と将来像」

講師：厚生労働省社会保障審議会社会的養護専門委員会委員長

淑徳大学 教授 柏女 霊峰 氏

報告「親族里親とともにすすめる親を失った子どもへの支援」

講師：宮城県里親連合会会長

日本ファミリーホーム協議会会長 ト蔵 康行 氏

トークセッション(本間 博彰氏・柏女 霊峰氏・ト蔵 康行氏

・福岡市子ども総合相談センター所長 藤林 武史 氏)

・出席者：1名

☆保育サポートリーダー講習(全4回) *参加者：3名

① 平成23年9月27日開催

「宮城県の家庭教育施策について」 講師：柴田サポーター 山田 悦子 氏 他

講演「被災地支援での家庭支援の実際」

講師：気仙沼家庭教育推進協議会 星 美保 氏

② 平成23年10月27日開催

講義・演習「アサーショントレーニング」

講師：社団法人日本産業 カウンセラー 末富 美貴 氏

③ 平成23年11月18日開催

活動事例紹介「子育てサロンきらきら」

講師：大和町 佐々木 裕美 氏、佐藤 ゆり子 氏

④ 平成23年12月2日開催

講義「子どもの心のケアのために」

講師：東京学芸大学 教授 大河原 美以 氏